

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200329		
法人名	医療法人社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町又兵衛新田第5地割335		
自己評価作成日	令和3年10月27日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より、新型コロナウイルス感染予防対策の為、約1年10ヶ月の間、面会及び外出禁止が続き、外部との交流が一切できない状況にあるが、感染予防対策を徹底しケアセンター6階屋上や5階南昌ホールを活用し、入居者様の合同誕生会や夏祭り等のイベントを企画し楽しんで頂いている。地域の方々との交流はまだ再開できないが、以前から交流のある矢巾1区婦人部の方々からは手作りマスクを沢山寄付して頂いた。また運営推進会議を通して、入居者様の日常の様子や敬寿荘の現状等を報告し情報共有に努めている。センター内においては診療所・訪問看護との医療連携が密に取れている他、今年4月の介護保険改定にあたり、加算の新設による他職種との繋がりも増えている。平成30年度に法人内のグループホーム・老健・小規模多機能との連携を図るために立ち上げたワーキング部会では2か月に1度の話し合いを継続しており、最近ではZOOMを利用し、それぞれの現状を報告しあい情報共有している。10月中旬より面会規制の緩和により、2階こども園との幼老交流も再開しつつある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

矢幅駅西口に立地する医療福祉多機能ビル「ケアセンター南昌」は、当事業所を含めて11の介護保険関連事業所や保育園、地域包括支援センターなどが入る複合型施設であり、医療法人社団帰厚堂・社会福祉法人敬愛会が各事業所の設置経営主体になっているため、医療・看護・高齢者施設・児童福祉施設の緊密な連携が図られている。当事業所は5階にあるが、1階には協力医療機関である診療所や訪問看護ステーションがあり、平常時は勿論のこと緊急時にも迅速に対応できる体制が整っている。コロナ禍により2階の保育園児との世代間交流も途絶えていたが最近再開し始めている。コロナ禍での面会制限を補完するために、ZOOMやタブレットを活用し、オンライン面会の希望に応えている。入浴日も、利用者の希望に対応できるように配慮されている。事業所内の設備も充実しており、居室にはエアコン、電動式ベッド、読書灯、ナースコール、床頭台、洗面台等が備え付けられている。当事業所は独立した二つのユニットで構成され、各ユニットの職員は相互に連携し、利用者が日々穏やかに充実した生活できるよう、「笑・穏・学・地」の理念のもと、職員一丸となって利用者の支援を行なっている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、職員それぞれが共有し、実践につなげるよう努めている。コロナ禍にて地域との関わりを持つ事が難しい実情はある。	事業所の理念(「笑穂学地」)は、法人の理念(「愛と誠の精神」)を踏まえながら、事業所内で話し合いを重ね、分かりやすさや覚えやすさに配慮し、キーワードを組み合わせて作成した。事業所の理念は各ユニットの共用空間の壁面に掲示され、常に目に入るようにしている。毎月1回開催される各ユニットのカンファレンスで、日頃の各職員の実践状況が理念に添っているか振り返りながら職員間で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現状入居者が地域との関わりを持つことは難しいが、ボランティアの方々から手作りマスクや動画を頂く等の地域との繋がりを感じることは出来ている。	これまでは、夏祭りや敬老会などに地域からも多くの方に参加して頂いていたが、コロナ禍以降、イベントの参加を利用者と職員に限定しており、地域とのつながりが希薄となっている。そのような中で今年度は、馴染みのボランティアから浴衣地を再利用した手作りマスクや踊りの動画のDVDを寄贈され、利用者の生活に潤いを与えている。また、ハロウインの時は同一建物内保育園児が仮装し訪問があり、離れた距離からではあるが見学することができ、久しぶりに和やかな雰囲気となり利用者からも非常に喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	物理的な活動は控えているが、ケアセンター南のホームページを活用し、認知症に対する知識、対応方法等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を今年度開催できず、書面での報告となっているが、敬寿荘だよりを添付し、写真等でも行事の様子がわかるようにしている。	コロナ禍前は、2か月に1回(奇数月)、家族(2名)、民生委員である町内会の会長及び副会長(2名)、町健康長寿課長、ケアセンター事務長、敬寿荘管理者とユニットリーダー(2名)の計10名により運営推進会議を開催していた。議事録は次回会議の際に委員に配布し、町の担当課にはその都度持参していた。コロナ禍に書面開催が続いたが、11月の第4回会議は参集方式で開催し利用者の状況や事故報告などを説明した。なお、警察署や消防署など、関係機関の出席について、今後検討することとしている。	運営推進会議の委員に利用者が含まれていないので、今後は利用者も出席できるように見直しすることを期待します。また、書面開催の際の資料送付、参集方式の際の議事録送付の際には、返信用封筒と意見を記入できる用紙を併せて送付し、各委員の意見の把握に努め、事業所運営に活用されるよう期待します。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段であれば運営推進会議に出席してもらっているが、今年度は書面での報告、情報共有をしている。	町の健康長寿課長が運営推進会議の委員として出席し、行政の立場から情報提供や助言をいただいている。町の担当者とは、介護報酬や加算などに疑義がある都度照会し、指導や助言を受けており、連携を図りながら事業所運営に生かしている。また、地域ケア会議には、関係する事例がある場合に職員が出席し、意見交換した内容は事業所に持ち帰り職員間で情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	敬寿荘内で勉強会を行い、拘束に当たる事柄を学び正しく理解している。また入居者個々の認知症状を理解し、ケアに取り組んでいる。	ケアセンター内で身体拘束事例が発生した際に開催されるケアセンターの「身体行動制限廃止委員会」に、管理者が出席している。事業所ではこれまでは身体拘束事例はなく、平成30年には「身体拘束適正化のための指針」を策定している。事業所での委員会は、管理者と各ユニットリーダーの計3名により構成され、3か月に1回開催することとしており、センター内委員会の報告などを行なっているが、議事録は作成していない。カンファレンスの際に併せて身体拘束に関する研修会を3か月に1回程度開催し、職員の共通理解に努めている。ユニットの玄関は日中は施錠しないが午後7時から翌日の午前8時30分頃まではケアセンターの集中コントロールシステムにより電子錠で施錠されている。	事業所の「身体拘束適正化のための指針」は策定されていますが、身体的な拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を指針に基づき、3か月に1回以上開催し、議事録を作成するとともに、委員会で話し合われた内容を職員に周知することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等を活用し、自分達の行動が誤ったものでないか確認し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受けた職員から、伝達講習をしてもらい、理解を深めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、書面(重要事項説明書・契約書)を用いて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場でご家族も同席し、外部者への意見を表せていたが、現在はできていない。今後予定しているご家族アンケートを使用し、外部者へも情報を共有していく。	家族から事業所の運営に関する意見を頂くための「家族アンケート」を隔年で実施し、今年度は今後実施予定である。例年、春と秋の年2回開催している「家族会」は家族から意見要望等を得る貴重な機会であったが、コロナ禍のため今年度は開催していない。家族が利用料の支払いに訪れた際等に意見や要望を伺うように努め、また、「苦情箱」を各ユニットの玄関内に設置しているが、これまで、意見や要望、苦情は特になかった。なお、日頃から家族との連絡を密にとりながら、意見を出してもらいやすい関係づくりを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで、話し合いの時間を設け、意見交換をしている。日常でも常に管理者・ユニットリーダーへ話せる環境を整え業務へ反映している。	各ユニットで毎月開催するカンファレンス(月1回)には管理者と全職員、他のユニットのリーダーが出席しており、そのために他のユニットの職員がカンファレンスの時間帯に応援に入っている。「外出の機会が減っているので屋上に出る機会をもっと設けてはどうか」、「水分補給について工夫したい」などの意見が出され、ケアの向上に繋がっている。また食材の購入についても「業者からの一括発注から毎日職員がスーパーマーケットで購入する方法」に変更する等、業務改善に繋がっている。管理者による職員との個別面談は、職員から悩み事相談などの申し出があった場合に行われている。	管理者による職員との個別面談は職員からの申し出があった時のみですが、今後は、年間計画に組み込み、定例的に開催して職員の思いや希望を把握するとともに、職員が自らのスキルアップの課題に気づく機会として、課題をクリアするための方策を管理者と職員が協働で検討されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は整備されている。労働時間等は職員個々で声を掛け合い、守っている。また職員の向上心を高められるよう、研修参加、勉強会を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター南昌での研修会や、外部の研修(リモート研修等)への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状では、同センター内でも各階への行き来は制限されている状態であるが、他事業所との委員会および研修会での交流はあり、意見交換する場は設けられている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との普段の会話から不安や困りごとを聞き取り 日常生活に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に本人、家族の要望を情報収集し安心して生活できるよう心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聞きながら必要なサービスを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、後片付け。掃除など出来ることは職員と一緒にいたり、一緒に同じ食事をとるなど共に生活する環境で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活に必要な物を届けていただいたり、受診の協力を お願いするなど入居者とその家族の繋がりを維持できるように支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	対面での面会は難しい状況だったが、オンライン面会等を家族に勧め、できるだけ施設外との交流に努めた。	コロナ禍にあり家族との面会が制限されているため、5階の事業所にいる利用者とケアセンター1階の面談室にいる家族がタブレットで面談をしたり、遠隔地の家族とは利用者が1階の面談室でZOOMを活用して面談できるようにしている。また、日頃の様子を家族にお知らせするために、「敬寿荘だより」を偶数月に、利用者一人一人の写真付きお便りを奇数月に発行し送付している。家族以外の人との交流が難しい状況にあるため、月1、2回のご夫婦による訪問理容は、利用者が外部の方と触れ合える数少ない貴重な機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうしが良好な関係を保てるよう職員が間に入る等配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の本人の経過や、家族様の現在を伺い、相談やアドバイスをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いを普段の会話から聞き出し、職員間で共有し日常生活のケアに繋げている。	殆どの利用者は会話による意思表示がある程度可能だが、両ユニット合わせて2名の利用者は言葉による意思表示が難しいため、日常の何気ない仕草や表情から思いを汲み取るよう工夫している。また、利用者の思いや意向の把握のための手法について、記録の工夫など職員間で試行錯誤を繰り返している。把握した利用者の思いは職員間で共有し、介護計画に盛り込むなど、日頃のケアに反映できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報や入居者本人からこれまでの暮らし方を情収集し施設での生活に生かしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を日々観察し変化が見られたら職員間で共有し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で、職員との話し合いを行い、何が本人にとって最適なケアであるか確認しあっている。またその情報は家族様へも共有し、要望を聞いている。	ケアマネージャーの資格を有する管理者が、家族や利用者の思い、主治医等の意見を取り入れながら、両ユニット全員の介護計画の原案を作成している。その原案をもとに、認知症介護実践者研修受講職員7名が、それぞれ2、3名の利用者を分担して介護計画を作成している。モニタリングは各ユニットのカンファレンスの際に行っている。計画の見直しは、通常は3か月に1回としているが、緊急時はその都度見直しを行なっている。作成した介護計画は家族に郵送または来訪時に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットでのカンファレンスで意見を出し合い職員間で共有し、実践、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡を取り合い対応していけるよう努める。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と関わりを持つことがなかなか難しい時期だったが地域の方から手作りマスクを頂いたりするなど改めて地域との繋がりを感じたこともあった。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族が希望するかかりつけ医を受診している。	入居時に利用者及び家族の意向を尊重しかかりつけ医を決めている。結果的には、内科については殆どの利用者がケアセンター内の診療所をかかりつけ医としている。内科以外の診療科目(皮膚科、外科、眼科、精神科等)は外部医療機関を受診し、受診の際は家族が同行することとしており、家族が対応できない時は職員が同行し、受診結果は随時、家族に報告している。歯科は訪問歯科診療(概ね3か月に1回)で対応している。各医療機関との連携体制が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に変化が見られたり、気づいたことは主治医や訪問看護へ相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現在の治療状況等を病院担当者と連絡をしている。また、病院で話を聞いた家族様の情報等も共有してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	明らかな重度化、終末期を感じられた場合、主治医とも相談しながら、家族様と話し合いの場を設け今後の方針を話し合っている。	入居時に利用者及び家族に入院医療が必要になった場合の医療機関の希望調査を行うとともに、重度化や終末期の対応について、事業所で定めている「説明書」「同意書」を基に説明している。同一建物内の協力医療機関や訪問看護ステーションとは、緊急時なども即対応していただく等、医療連携体制が整っている。看取りは可能であるが、看取りを行ったことはない。これまで重度化した利用者や緊急性のある利用者がいなかったことから、看取りに関する職員の研修会は未だ開催していないが、支援体制は整えている。	

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも対応・連絡できるようにしている。またセンター放送を使い応援を呼ぶ体制もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や、災害時等の動きを昼夜を問わず訓練している。また地域との情報共有も行っており、地域の公民館にある物資等も知らせてもらっている。	事業所単独の避難訓練ではなく、ケアセンター内全事業所の合同避難訓練として実施(参加)し、日中のみならず夜間を想定した避難訓練も実施している。最も怖いのは火災であり、失火を防ぐために、日々火気の自主点検を行っている。また、種々の災害に備え、職員の非常招集訓練も随時実施している。数年前の豪雨災害の際は、河川から溢れた水がケアセンターの玄関口まで到達し、土嚢を積んで浸水を防いだことがあった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を守り、プライバシーに配慮した声掛け、対応をするよう気を付ける。	間違っって他居室に入ろうとする利用者もいるため、プライバシー確保のために、居室には内鍵をつけているが、殆どの利用者は内鍵を使っていない。なお、職員はマスターキーで入室することができるため、内鍵を施錠した場合でも、支援に支障はない。また、職員は出勤時に利用者全員に挨拶し、居室入室時には必ず声かけをしている。トイレ誘導の際は、他の利用者に分からないような声かけを工夫している。入浴介助や排泄介助では、異性介助を嫌う利用者がないので、同性介助にこだわってはいない。職員は、日頃から利用者の皆さんを人生の先輩として「お世話させていただいている」という謙虚な姿勢で適切な言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係の構築に努め、入居者自身が希望を話せるような環境を作れるようにする。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムを尊重し声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択などを本人が出来るよう支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あらかじめ好きな物、嫌いな物を調べ、栄養が偏らないよう配慮しながら好きな物を食べて頂く。	献立は同一建物内にある介護老人保健施設の管理栄養士が作成する1週間単位の献立を基本とし、利用者の好み等を加味して決めている。食材は職員が近くのスーパーマーケットで毎日購入している。利用者の嚥下能力により食形態を工夫するとともに、職員も一緒に食卓を囲み楽しい雰囲気づくりに配慮している。両ユニット合同の誕生会等の行事食は、利用者から好評である。また午前10時頃に水分補給を兼ねてコーヒーやお茶を、午後3時頃には手作りのおやつを提供している。食事の下準備や盛り付け、配膳、後片付けなどを利用者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し栄養バランスに配慮する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い口腔状態の把握に努める。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るよう時間を見て声掛けを行う。	両ユニット18名のうち、リハビリパンツは10名、テープ付きの紙おむつは1名、他の利用者布パンツを利用している。夜間にポータブルトイレを使っている利用者は1名である。またトイレ誘導が必要な利用者は、両ユニットで7名となっている。きめ細かな排泄状況の確認と職員からの声かけのタイミングを工夫したことにより、入居後に排泄の自立度が上がった利用者も数名いる。排泄介助に当たり、これまでは排泄チェック表を活用していたが、職員間で協議を重ね、現在はタブレットに入力し、随時排泄状況を確認し介助にあたっている。	9
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人一人の体調を確認しながら主治医や訪問看護へ相談し便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理な声掛けはなるべくせずに気持ちよく入れるタイミングで入浴していただく。また入浴希望に沿えるよう配慮する。	入浴は午前中とし毎日でも入浴できる体制を整えているが、殆どの利用者は隔日の入浴となっている。入浴剤により色や香りを楽しめるよう工夫している。一人で入浴する場合はほとんどだが、親しい人同士で入浴する利用者もいる。職員は見守る程度にしている。車椅子の利用者についてはシャワー浴で対応している。また入浴中の利用者の何気ない会話を職員間で情報共有するとともに、皮膚等の全身状況を観察し、必要により訪問看護ステーションに連絡して助言を得る等、日頃のケアに生かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムから良眠できるタイミングで声掛けする等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調に変化が生じたら、主治医や薬局と連絡を取り合い薬の調整を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物ができる方には雑巾縫い、歌が好きな方には歌をみんなで歌って楽しむ等、日常生活に張りをもたせる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近の情勢で外出の機会はかなり減ったが、近場のドライブや散歩は実施できた。	コロナ禍により外出機会は激減しているが、コロナが収束に向かいつつある中、感染予防に十分配慮しながら、11月にバスハイクを実施し、利用者全員と職員の約30名で紅葉狩りに出かけた。車窓からの紅葉見学や産直でのアイスクリーム等久々の外出を楽しみ、和やかな時間を過ごすことができた。現在はケアセンター外での散歩はできないが、屋上でのプランターへの水遣りや景色を眺めること等により気分転換を図っている。両ユニットで1部購読している新聞を別のユニットに利用者が届けに行く等、相互の交流を日常的に行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人が安心して買い物ができるよう支援している。また管理が難しい入居者には預り金から必要なものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話を取り次いだり、時にはこちらから電話をかけ家族と電話し話をしてもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間が乱雑にならないよう整頓する。また空気の入れ替えをこまめに行い気温や風を感じてもらう。	各ユニットの玄関から続く廊下や食堂兼居間の壁面には利用者と職員と一緒に作った作品や習字、行事の際の写真などが掲示され、棚には季節感を感じさせる置物が陳列されている。大きな窓からは遠くにそびえる岩手山や矢幅駅周辺の街並み、新幹線を眺めることができる。利用者の座席は概ね決まっているが、人間関係などを考慮し必要により変更している。共有空間はエアコンや加湿器によりコントロールされている。利用者のほとんどは、日中は食堂兼居間でテレビを見たり好きなことをしながら寛いでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 敬寿荘 こすもすユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは入居者同士トラブルにならないよう席を気を付けたり職員が間に入り関係を仲介する等配慮する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人が安心して過ごせるように家具の配置等配慮している。また家族に協力してもらい馴染みの家具などを持ち込んで頂くようお願いしている。	居室には、エアコン、電動式ベッド、床頭台、整理タンス、椅子、洗面台、ナースコール、読書灯が備えられている。居室は八畳大で、ゆったりとした雰囲気を感じさせる。壁面のコルクボードに家族写真などを飾ったり、使い慣れたテーブルを持ち込んでいる利用者もいる。両ユニットで3名の利用者が、居室にテレビを持ち込んでいるが居室で見ることは殆どない。電動式ベッドは常にフラットな状態で使用している。ナースコールを使える利用者は両ユニットで1名である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行できる入居者の転倒リスクを避けるため整理整頓に努めている。		